

巻頭のことば

『教育学研究室紀要』の第三号は、1998年度後半から99年度前半に至る院ゼミを中心とした教育学研究室の研究活動報告と、この2月までの所属メンバーの研究成果の一部が掲載された通常号である。

99年6月の第二号『新しい男性像を求めて—男性の視点からみた両性の平等に関する北欧会議報告—』の翻訳特別号に続く本号は、課程博士論文執筆中のドクター3年に代り、2年の2人が中心となって編集をすすめた。

創刊号で筆者は、当研究室の今後の課題を、保健学分野における社会調査のあり方や、社会科学的視座からなされるより具体的な研究方法に関する検討であるとしていた。この点で、今期の最大の収穫は『女性と統計—ジェンダー統計論序説—』（伊藤陽一編著）を手はじめに、ジェンダー統計に関する著作についてのまとまった検討の機会を院ゼミで得ることができたことである。

ジェンダー統計はジェンダーという視点から調査項目の立て方や使用する用語および概念、統計処理の仕方まで、系統的に検討し直すことを要求する。したがって、ジェンダー視点から行われた統計調査は、従来の社会調査のあり方とその結果を大きく変えることになる。

開発途上国、先進国を問わず、ジェンダー統計による現実把握は、両性の平等と社会の向上への第一歩であることが確認された。これらの視点は、すべてのメンバーにとって示唆的な内容を含むものであった。

さらに、本号ではまだとりあげることはできないが、この間の当研究室における最大の出来事は、ドクター3年の2人が苦しみながらも、各々の手法でこれまで学んだ社会調査の方法を駆使して、課程博士論文という具体的な研究成果を生み出すことができたことである。長い年月を要して作成された旧来の論文博士とは違い、まだ十分に発展させる余地を残している彼等の研究成果の今後の深まり、広がり大いに期待したい。

橋本 紀子